明治維新150年記念事業がスタート
萩・明倫学舎・世界遺産・関連イベント

萩

山口県萩市は、2018年明治維新150年を記念して、さまざまな事業を展開する。昨年3月4日には、旧明倫小学校校舎を改修整備した萩の観光起点「萩・明倫学舎」がオープン。「トワイライトエクスプレス　瑞風」の立ち寄り観光地や観光列車「○○のはなし」の運行開始など魅力的な観光資源に恵まれたスタートとなった。

萩・明治維新150年オープニングイベント

萩・明治維新150年オープニングイベントが1月20日～1月27日まで開催された。明治維新150年となる大きな節目の年の幕明けを、「明治維新胎動の地」である萩市から、いち早く各媒体を通じて周知することで、多くの人に萩へ足を運んでもらい萩の魅力を知ってもらうのが目的。同イベントを契機に、若い世代に向け、情報発信するために、SNSなどを中心に情報を発信する「萩・魅力PR大使」を任命。維新の志士達の志を次世代につなげるため、県内小学生を対象とした「松陰先生のことば」の朗唱コンテストなど150年記念事業の機運を盛り上げた。

1月20日には萩市民館大ホールで萩・明治維新150年オープニングイベント開会式を開催。藤道健二・萩市長が開会宣言と今年実施される16事業を発表。5月15日と16日には囲碁の第73期本因坊決定戦七番勝負の第1局が、萩・明倫学舎で開かれる。9月15日からは、萩博物館で特別展「手塚治虫が描いた明治維新」が開催。12月16日に開催する萩城下町マラソンには、ゲストランナーとしてシドニーオリンピック金メダルの高橋尚子さんが参加する。他にも開会式では萩・魅力PR大使240人を任命。アトラクションとしては大板山たたら太鼓、歴史パフォーマンス「SHOWIN　―若き志士たち―」も上演された。

また、明治維新150年の2018年を「着物イヤー」として、位置づけ。城下町のまち並みを今もとどめる萩で、その風情に似合う着物を着てのまち歩きを提案していく。3月31日までの特典として、着物を着て、萩市観光協会（JR萩駅そば）へ行くとプレゼントが貰える。市内で着物レンタルができる店舗を観光協会のホームページで紹介。

歴史パフォーマンス「SHOWIN　―若き志士たち―」

日本最大の木造校舎 萩・明倫学舎

萩・明倫学舎

全国屈指の規模を誇った萩藩校明倫館。その跡地に建つ日本最大の木造校舎が萩の新たな観光起点となり、観光客の人気を集めている。施設は本館と2号館を使用。本館は1935年（昭和10年）建築で、国登録有形文化財。萩まちじゅう博物館観光インフォメーションセンター、萩藩校明倫館展示室、多目的復元教室、明倫小学校展示室、ジオパークビジターセンター、天井裏見学室、復元教室、復元校長室、復元教室、レストラン・カフェとお土産ショップが入る。萩まちじゅう博物館観光インフォメーションセンターは、萩の歴史・文化・自然などへの興味を喚起する、観光の起点。市内観光に出発するための様々な情報が入手できる。萩・明倫学舎館内の案内も行う。多目的復元教室では、紙芝居や貴重に使用し「萩の食」の魅力を発信している。お土産ショップでは萩焼や夏みかんのお菓子などの萩の土産が揃う。2号館も1935年（昭和10年）建築。萩の5資産を含む世界遺産「明治日本の産業革命遺産」を紹介する「世界遺産ビジターセンター」と幕末の歴史をひもとく貴重な寄贈資料を紹介する「幕末ミュージアム」がある有料施設。

世界遺産ビジターセンター

世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の中でも、日本近代化の原点といわれる萩の5資産の位置付けや、吉田松陰がわが国の工学教育に果たした役割などを映像やパネル、アニメーションなどを使って分かりやすく楽しく紹介する。NHK大河ドラマ「花燃ゆ」の松下村塾のセットも引き続き展示される。

幕末ミュージアム

幕末ミュージアムでは、日本でも有数の収集家である小川忠文氏（下関市在住）から萩市に寄贈された幕末維新期の歴史・科学技術史3千点を超える資料のうち、特に貴重な実物資料を展示。幕末維新動乱期に使用されたゲベール銃、エンフィールド銃などの鉄砲類や武具類などの軍事関係資料、江戸時代に日本で最初に作られた天文成象図（星図）などの天文関係資料、伊能忠敬が使用したものと同形の象限儀などの測量関係資料、エレキテルと称する電気式医療器具などの医学関係資料、江戸時代に作られた国産の顕微鏡などの科学技術関係資料など、貴重なもの。萩・明倫学舎の開館時間は、午前9時～午後5時（レストランは午前11時～午後3時まで）。観覧料は本館無料。2号館は大人300円、高校生200円、小中学生100円（団体2割引）。駐車場は普通車約180台（1日310円）、大型バス10台（1日1030円）。

萩・明倫学舎

世界遺産ビジターセンター

萩の明治日本の産業革命遺産

萩の明治日本の産業革命遺産

「明治日本の産業革命遺産」は、製鉄、造船、石炭産業などの重工業が西洋の技術を取り入れて極めて短期間のうちに日本が「ものづくり大国」となる基礎をつくった歴史を物語る世界遺産。山口県・萩や九州など8県11市に立地する23の構成資産からなるシリアルノミネーションで、萩エリアには、産業技術導入の最初期の遺産群として5つの構成資産がある。

萩市内には、萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、萩城下町、萩城跡、旧上級武家地、旧町人地の3つの区域によって構成。萩博物館も世界遺産エリアに含まれる。萩城跡指月公園では、往時の萩城天守閣の様子をVR（仮想現実）技術を使いCGで再現。専用タブレット端末で見学できる。

松下村塾（萩市椿東1537松陰神社敷地内）

萩（長州）藩の兵学者吉田松陰が主宰した私塾。松陰は身分や階級にとらわれず門下生として受け入れ、わずか1年余りの間ではあったが、久坂玄瑞、高杉晋作、伊藤博文らが学んだ。松陰は海防の観点から工学教育の重要性をいち早く提唱し、自力で産業近代化の実現を図ろうと説いた。その教えを受け継いだ伊藤博文ら塾生の多くが、後の日本の近代化・産業化の過程で重要な役割を担った。

萩反射炉（萩市椿東4897―7）

西洋式の鉄製大砲鋳造を目指した萩（長州）藩が、1856年に建設した高さ約10・5mの反射炉の遺跡。遊歩道が整備され、観光ボランティアガイドも常駐。JR西日本が運行する「トワイライトエクスプレス　瑞風」が萩反射炉付近を走ることから、車窓から見学しやすいように整備も行われた。

萩反射炉

恵美須ヶ鼻造船所跡（萩市椿東5159―14）

萩（長州）藩が西洋式帆船を建造するために設けた造船所で、国内で最初期の洋式造船所のひとつ。2隻の西洋式帆船（1856年に丙辰丸、1860年に庚申丸）を建造。VR（仮想現実）技術を使い、西洋式帆船のCGが専用タブレット端末上で再現され、往時の様子を見学できる。

大板山たたら製鉄遺跡（萩市大字紫福2575（山地番））

日本の伝統的な製鉄方法であるたたら製鉄の遺跡。第3回目の操業期と恵美須ヶ鼻造船所で丙辰丸が建造された時期が重なっており、造船所での船釘・碇などの製作に、このたたらで生産した原料鉄が利用された。現地には、絵図を用いた往時のたたら製鉄の様子が動画で紹介されている。専用タブレット端末で紹介動画が楽しめる。

萩城下町（萩市大字堀内1など）

萩城下町は、幕末に産業化に取り組み、産業文化を形成していった当時の地域社会の姿をよく表しており、城跡（萩城の跡）、旧上級武家地、旧町人地の3つの区域によって構成。萩博物館も世界遺産エリアに含まれる。萩城跡指月公園では、往時の萩城天守閣の様子をVR（仮想現実）技術を使いCGで再現。専用タブレット端末で見学できる。

松下村塾（萩市椿東1537松陰神社敷地内）

萩（長州）藩の兵学者吉田松陰が主宰した私塾。松陰は身分や階級にとらわれず門下生として受け入れ、わずか1年余りの間ではあったが、久坂玄瑞、高杉晋作、伊藤博文らが学んだ。松陰は海防の観点から工学教育の重要性をいち早く提唱し、自力で産業近代化の実現を図ろうと説いた。その教えを受け継いだ伊藤博文ら塾生の多くが、後の日本の近代化・産業化の過程で重要な役割を担った。

萩反射炉（萩市椿東4897―7）

西洋式の鉄製大砲鋳造を目指した萩（長州）藩が、1856年に建設した高さ約10・5mの反射炉の遺跡。遊歩道が整備され、観光ボランティアガイドも常駐。JR西日本が運行する「トワイライトエクスプレス　瑞風」が萩反射炉付近を走ることから、車窓から見学しやすいように整備も行われた。

恵美須ヶ鼻造船所跡（萩市椿東5159―14）

萩（長州）藩が西洋式帆船を建造するために設けた造船所で、国内で最初期の洋式造船所のひとつ。2隻の西洋式帆船（1856年に丙辰丸、1860年に庚申丸）を建造。VR（仮想現実）技術を使い、西洋式帆船のCGが専用タブレット端末上で再現され、往時の様子を見学できる。

大板山たたら製鉄遺跡（萩市大字紫福2575（山地番））

日本の伝統的な製鉄方法であるたたら製鉄の遺跡。第3回目の操業期と恵美須ヶ鼻造船所で丙辰丸が建造された時期が重なっており、造船所での船釘・碇などの製作に、このたたらで生産した原料鉄が利用された。現地には、絵図を用いた往時のたたら製鉄の様子が動画で紹介されている。専用タブレット端末で紹介動画が楽しめる。

観光列車が人気
地元では、おもてなしを実施

東萩駅でのおもてなし

グリーンライトアップ

「TWILIGHT EXPRESS　瑞風」

JR西日本の豪華寝台列車「TWILIGHT EXPRESS　瑞風」は昨年6月17日に運行を開始。下関駅は、全5コースの内、1泊2日の4コースで出発駅または到着駅となる。トワイライトエクスプレスの伝統を受け継ぎさらに上質さを演出した「瑞風グリーン」と金色のエンブレムとラインを配し、流線型の先頭車にある展望デッキが特徴的な外観。車両では、世界的にも珍しい、1両をまるごと客室にした「ザ・スイート」はじめ「食堂車」、「ラウンジカー」「展望車」などがある。

立ち寄り観光

TWILIGHT EXPRESS　瑞風の旅では、1日1回、沿線の途中駅に立ち寄り、沿線の歴史、文化や美しい景色を観光する。この立ち寄り観光では、国内外で評価される観光地に加え、知る人ぞ知る日本の原風景を探訪し、非公開箇所の見学や隠れた名品の鑑賞等の特別な体験を提供する。

萩では「山陰コース（下り）～文豪と維新の歴史をたどる旅～」で2日目の立ち寄り観光を実施。世界遺産の松下村塾、萩焼の窯元を訪ねる。東萩駅で下車し、専用バスで移動。松下村塾で名誉宮司による幕末秘話の特別講話を聞き、萩焼名窯元「不走庵　三輪窯」を訪問する。

山口県下関市では、2017年6月18日と19日に「TWILIGHT EXPRESS　瑞風」のJR下関駅発着を記念して、グリーンライトアップや、ふくちょうちんの展示など様々なおもてなしイベントをJR西日本と連携して実施した。

観光列車「○○のはなし」が好調

JR西日本では、昨年8月5日から山陰線（新下関～下関～長門市～東萩駅）で観光列車「○○のはなし」（まるまるのはなし）の運行を開始。列車名には、本州最西端で、響灘や日本海に面し、美しい海岸美が続く山陰線沿線には、日本と西洋をひき合わせた志士達の歴史や文化、食などについて、さまざまな「はなし」が息づいていることに思いを込めた。

「○○のはなし」の車内では、沿線の「はぎ（萩）、なが（長門）、しもの（下関）」を感じられる催し物を用意。外観イメージは、本州最西端の山口県（萩、長門、下関）は、日本と西洋をひき合わせるきっかけとなった歴史が息づくことにちなみ、「西洋に憧れた日本（洋）、西洋が憧れる日本（和）」をコンセプトに、2両別々のデザイン。1号車の和には畳が採用されている。1号車と2号車の接合部分は絆ポイントとして人気撮影ポイントとなっている。

内観イメージは本州最西端の響灘や日本海の海岸美を楽しめるように、窓枠を極力大型化したほか、海側を向いた座席を配置（ボックス席を除く）。沿線の自慢の品々が買える販売カウンターや、さまざまな「はなし」に出逢えるイベントスペースを設置した。乗客を対象に、こだわりの弁当なども販売され好評だ。「夢のはなし弁当」は幕末の志士、高杉晋作も愛した下関の老舗料亭「古串屋」の自信作。「長門おとずれ弁当」は長門湯本温泉「大谷山荘」の料理長監修による厳選された日本海の幸や長州地どりをはじめ、地元の食材にこだわった。

対象列車は新下関駅・下関駅発、東萩駅行き列車。価格は2500円でペットボトルのお茶付き。東萩駅発、下関駅・新下関駅行き列車では、「萩のお猪口とおつまみセット」（1500円）と「萩のスイーツセット」（1200円）を販売している。いずれも3月前までに要予約。また仙崎駅での停車も行われ、駅での歓迎や、名物のかまぼこの試食と販売、日本酒の振る舞いなども行われる。快速列車（全車指定席）の2両編成で1日1往復の運転。定員は60人（洋32人、和28人）。乗車券のほかに、座席指定券（520円）が必要。運転日は土曜日、日曜日、祝日を中心に運転。

観光列車「○○のはなし」の外観

途中駅でのおもてなし

萩の観光トピックス
長州サムライめし　スーパーはぎ号　松陰神社　萩焼

長州サムライめし

道の駅「萩しーまーと」（山口県萩市）内の飲食店では、明治維新150年に向けて機運を盛り上げようと、昨年12月22日まで高杉晋作ら幕末の志士にちなんだ料理メニュー「長州サムライめし」を販売した。2018年度は道の駅「萩しーまーと」以外の市内の店舗も参加し、拡大して展開される予定。メニューは、「晋作が愛した『萩の真鯛まだい御膳』」（浜料理がんがん、1日10食）、「和洋折衷『毛利家の殿様ランチ』」（来萩レストラン、1日15食）、「4人の長州侍×4種の萩魚『志士丼』」（維新亭）。萩博物館の学芸員の指導で吉田松陰や高杉晋作、木戸孝允、伊藤博文と幕末の長州藩主の毛利敬親5人の食に関するエピソードや、好物について学んで開発された。

吉田松陰の大福もち、高杉晋作のタイ、木戸孝允の塩ウニなどが好物として採用された。価格は1500円（税別）で統一。

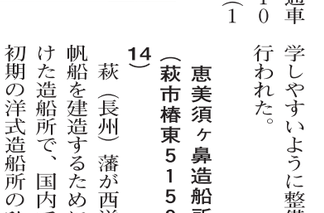
「スーパーはぎ号」が継続運行

2次交通対策として、大河ドラマの放送を機に運行を開始した「スーパーはぎ号」は好評につき継続運行。新山口駅と萩観光の要所である「萩・明倫センター」を結んでいたが、1日8往復に増便され、萩バスセンターと東萩駅にも停車するようになった。

車体には萩の世界遺産がラッピングされている。特別料金で、おとな1550円、こども780円。

松陰神社宮司による松陰講話

松陰神社本社で御由緒や参拝の方法などの説明を受けた後、代表者が玉串を奉奠する正式の参拝を行う。参拝後は、藩から自宅謹慎を命じられた松陰が過ごしていた吉田松陰幽囚ノ旧宅を見学。普段は上がることのできない松下村塾に上がり、宮司の特別講話を聴くことができる。定員は40人（最少催行人員10人）。7日前までの主な旅行会社での予約が必要。


松陰講話

萩焼

茶陶（茶の湯で使うための陶器）として有名な萩焼は、江戸時代に毛利氏の御用窯として発展した陶器で、歴史は約400年の伝統を誇る。萩焼の作風は土の風合いを生かした素朴な作風のものが多く、絵付けなどの装飾はほとんど行われない。登り窯の中で、高温の炎が生み出す「窯変（ようへん）」の魅力や、使いこまれるうちに、侘びた味を醸してゆく「七化け」の面白さなど。古くから茶人に珍重されてきた。やわらかで素朴な風合いがあり、同時に気品と風格も漂う。

窯元や小売店が100軒程度あり、芸術品から日用の器までさまざまな作品が制作されている。登り窯や作業工程の見学ができる窯元や、オリジナル作品を作れる陶芸体験を行っている施設もあり、絵付け、手びねり、ろくろなどを体験しながら萩焼のあたたかさに触れることができる。

サムライめし

登り窯

スーパーはぎ号

問い合わせ先
一般社団法人萩市観光協会
〒758―0061　山口県萩市椿3537-3　ＴＥＬ：0838－25－1750
萩市観光協会公式サイト　ぶらり萩あるき　http://www.hagishi.com/